

## 第3回 九州圏広域地方計画協議会 議事録

日時：平成27年2月4日（水）10：00～11：30

場所：福岡県中小企業振興センタービル 2階 大ホール



### 次 第

#### 1. 開 会

#### 2. 挨 拶

#### 3. 議 事

（1）九州圏広域地方計画協議会規則等について

（2）新たな国土形成計画（全国計画）中間整理について

（3）新たな九州圏広域地方計画骨子（案）の概要について

（4）その他

#### 4. 閉会

## 1. 開会

### (事務局)

時間となりましたので、只今から「第3回九州圏広域地方計画協議会」を開会いたします。

本日はお忙しい中、本会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます、九州地方整備局九州圏広域地方計画推進室の樋口と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは開会にあたりまして、国土交通省佐々木国土交通審議官より挨拶をお願いしたいと思います。宜しく願い致します。

## 2. 挨拶

### (佐々木国土交通審議官)

皆様おはようございます。ご紹介いただきました国土交通省の佐々木です。

九州圏広域地方計画協議会ご出席の皆様方におかれましては、日頃から私共の国土交通行政の推進に大変ご尽力賜っており、厚く御礼申し上げます。又、広域地方計画の推進についても、大変ご支援をいただいております、重ねて御礼申し上げる次第です。

もう50年以上も前になるのですが、1962年に初めての国土計画が策定されました。以降6次に亘って国土計画が作られております。いずれも右肩上がりに人口が増えていく、放っておいても経済が成長していく、そういう時代の計画であったわけですが、御覧の通り、今の状況は全く変わっており、人口減少の時代の初めての国土計画である国土形成計画を今私共は作ろうとしているところです。

それに加えまして、私共は東日本大震災を経験し、自然災害の非常に大きなリスクをこの国は抱えているということを改めて認識し、このようなことも、計画に反映していかなければいけないと思っています。

しかし、暗い事ばかりではなく、特にこの九州では非常に活発な活動が行われています。何と云っても日本の外に目を向ければ、これから非常に発展していくであろう、アジアの広大な市場があり、国際化を梃子にし、日本の成長を図っていく可能性が大いにある状況でもあります。

これらのことを踏まえ、昨年7月に2050年を睨んで新しい国土計画を作ろうということで、「国土のグランドデザイン2050」を発表させていただいております。

また、昨年を振り返ってみますと、外国人観光客1341万人ということでして、非常に好調です。それからご存じのとおり、2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開かれます。これを私共は一里塚と思っていますが、東京あるいはそれに繋がる地域だけのものにしてははいけませんし、一過性のものにしてはいけないということで、これを一つの梃子にして我が国の成長を図っていく、そういうことが必要だろうと思っています。

さらに地方創生の流れがこの地域でも出てきていますが、それぞれの地域の事はそれぞれの地域で頑張ってくださいということです。計画を作るということは、内容はもちろんのこと、行政の方、経済界の方など、皆様お集まりになって共通の認識・共通の目標を作っていく、という過

程が非常に重要ですし、計画を作った後、それをどのように実現していくかについても、一体となって進めていくことが非常に重要であると思っています。

実は、九州は色々な意味で日本全体をこれから引っ張って行っていただける可能性がある地域だと、私共は思っています。

是非、皆様方で良い計画を作って頂いて、地域の成長・発展を遂げて頂くことに、私共国といたしましても一生懸命応援させて頂きたいと思っています。

どうかよろしく願いいたします。今日はありがとうございます。

#### (事務局)

ありがとうございました。

続きまして、九州圏広域地方計画協議会 麻生会長 より、御挨拶を頂きたいと思います。麻生会長、よろしくお願い致します。

#### (麻生会長)

皆様おはようございます。本日は第3回九州広域地方計画協議会に東京からたくさんの方々に来ていただき、また九州各県からお集まりいただきましてありがとうございます。

先ほど、佐々木国土交通審議官からとても明るい雰囲気です。「九州はエネルギーがありそうである、勢いがあると東京では感じている。うわさにしている。」という情報を頂き、本当にありがたいと思います。

私も一昨年の6月に九州電力の松尾会長から後任として、九州全体の九経連の会長に、そしてこの協議会の会長として就任いたしました。その最初の月から私は「九州から日本を動かす。その為に、九経連の会長としてがんばります」ということを全会員の方々にお流ししました。本当に今言って頂いたように、知事がお感じに、あるいは耳にされているような事を東京は期待しているということは、地方創生においてもそれだけやり甲斐がある代わりに、「君たちそれだけポテンシャルあるのにもっとどうして伸ばせないのか」という責任があると思います。我々リーダーが現役である、この時代に、2015のアベノミクス、あるいは地方創生というものに出会っているわけですから、5年後に「何をしていたのか」「あの時どうして九州は選ばれなかったのか」ということが無いようにしたいと思います。

また、九州はこれだけ潜在的に、あるいは数字的にも出ているわけですから、ばらまきとするのではなく、とんがりを求めているということを東京の大臣から伺いました。

そういう意味で、ばらまいている人が悪いのではなく、とんがっていない地方がだらしのないのだということで、我々是非こういうことをやっていきたいのだという思いを持って、この計画を色々考えて頂けたらと思っています。

是非、今日皆様方熱いメッセージを本省の方に言っていただいて「九州は元気そうだ」ということで進めて頂けたらと思います。

今日は本当に、貴重な時間を東京から来ていただいて、あるいは各県から集まって頂きありがとうございます。大事な圏民の為に、そして国益の為に、皆様と選択と集中の視点で頑張っていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願ひいたします。

#### (事務局)

ありがとうございました。

ここで報道関係の皆様にお願ひがあります。これより、報道関係者席にて取材をお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

では、本日の資料の確認をさせていただきます。

本会議の出席者につきましては皆様ご紹介すべきところですが、お手元に配付しています「出席者名簿」により紹介に代えさせていただきます。

本日の協議会の定足数については、構成員 29 名のうち 24 名の方々にご出席をいただいていますので、成立していますことをご報告いたします。

次に、お手元の議事次第資料一覧があります。お手元に配付しています資料のご確認をお願ひ致します。

まず資料 1 が<九州圏広域地方計画協議会規則等>、資料 2 といたしまして<新たな国土形成計画全国計画中間整理とその概要>、<全体構成案 計画改訂にかかる今後のスケジュールについて>です。資料 3 が<新たな九州圏広域地方計画検討の経緯>、資料 4 が<新たな九州圏広域地方計画骨子(案)>、資料 5 が<九州圏広域地方計画骨子概要(案)>です。それから参考資料といたしまして、3 種類の資料を配布させていただきます。

以上が資料になります。何かご不足等ありましたら、事務局の方にお申し付けいただけたらと思ひます。よろしくお願ひしたいと思ひます。

では、これより議事に入らせて頂きます。

ここからは麻生会長に進行をお願ひしたいと思ひます。麻生会長よろしくお願ひいたします。

### 3. 議事

#### (1)九州圏広域地方計画協議会規則等について

(麻生会長)

それでは、早速ですが議事に入らせていただきます。議事(1)として九州圏広域地方計画協議会規則等についての説明をお願ひ致します。

#### 事務局(古木統括副室長より説明)

私から資料 1「九州圏広域地方計画協議会規則」の改正についてご説明いたします。

1 枚めくって頂まして、1 ページの所に「九州圏広域地方計画協議会規則」というものがあります。2 ページ目の第 8 条に「学識経験を有する者からの意見聴取」というものがあり、めくって頂まして 8 ページ目に「九州圏広域地方計画学識者懇談会規約」というものがあります。この部分の構成等の第 2 条「懇談会は別表に掲げる学識経験を有する者をもって構成する」という文があります。この項について今回新たな広域計画の策定にあたりまして改正するということで、本日をもって変更を承認いただきたいということです。最後のページをご覧ください。新しい学識者懇談会のメンバーです。今回は全国計画との整合性を図る観点から、国土審議会計画

部会委員などを加えることが望ましいため、委員長の矢田先生のご意見を踏まえ、この表のような人員構成としています。青字が新たな委員です。前回 11 名・今回 13 名の構成となっています。以上で説明を終わります。

**(麻生会長)**

ありがとうございました。

以上の説明について、何かご意見・ご質問はありませんか。よろしい、ということで進めさせていただきます。

続きまして議事の(2)新たな国土形成計画全国計画の中間整理について、および(3)新たな九州圏広域地方計画骨子案の概要についての説明をお願いいたします。

**(2) 新たな国土形成計画の中間整理について**

**(北本大臣官房審議官より説明)**

現行の国土形成計画(全国計画)は、平成 20 年 7 月に策定されています。現行計画の計画期間は概ね 10 年ということですが、そういう意味ではまだ 10 年は経ってはいない訳ですが、その計画の策定後、東日本大震災でありますとか、急激な人口減少の意識の高まり、地方創生といった重要政策が実施されてきているということもあります。こういったことを踏まえ、昨年 7 月に国土交通省では国土の長期展望ということで「国土のグランドデザイン 2050」というものを発表させて頂いたところです。現行の全国計画から 6 年余りということですが、改定の必要性がでてきたと私共は認識しており、昨年 9 月に国土審議会を開催いたしました。その国土審議会において、改定に向けた検討を行うことを決めていただき、計画部会というものを設置いたしました。以来、昨年 10 月から 12 月にかけて 6 回計画部会を開催し、計画の基本的な考え方というところをご審議いただいています。その部分を中間整理としてとりまとめまして 1 月 19 日に公表したという流れです。

この中間整理ですが、お手元の資料 2-2 が本体であります、31 ページにわたるものなので、恐縮ではありますが時間の関係もありますので、2-1 の A3 の 1 枚で中身につきまして概要をご説明させて頂きたいと思っております。

この中間整理ですが、大きく 3 章の構成です。

第 1 章が国土に係る状況の変化ということで、その第 1 節で国土を取り巻く時代の潮流と課題ということで 6 つ整理しています。先ほど申し上げましたように、急激な人口減少、少子化の問題、高齢化の進展、グローバル化、巨大災害の切迫、これは首都直下地震、南海トラフ地震等々、それ以外にも火山災害、土砂災害、豪雨災害、最近では大雪問題もありますけども、このような災害の切迫、あるいは技術革新といったような明るい話題もありますが、そういった時代の潮流の変化といったものを踏まえております。

また、第 2 節の国民の価値観の変化ということで、国際志向・地域志向といった、様々な価値観が多様化してきています。これ以外にも都会志向だけではなく、田園回帰ということも最近は見られるかと思っております。そのような様々な価値観が併存する時代であるということ、それから、コミュニティの弱体化、これは都市部も地方も含め弱体化しています。一方で NPO などの多様な

主体が共助づくり社会に参画してきている流れもあろうかと思えます。そして、様々な災害、事故を踏まえまして、国民の安全・安心に対する意識というものが非常に高まっていることを整理しております。

第3節では、国土空間の変化について整理しています。これも人口減少・高齢化を踏まえて、低未利用地や耕作放棄地が増えている、或いは空き家の問題、所有者不明の土地、そういった問題が顕在化しているというところです。また、森林の本格的な利用時期にも来ており、こういった国土空間の変化というものを踏まえまして、日本の命運を決する10年ということで、この10年で国土をどうしていくべきか、ということが今回の基本的な命題ということで、第2章で国土の基本構想を整理しております。

どういった国土を目指していくかということですが、第一節の表題にあるように「対流促進型国土」の形成を目指すことにしています。「対流」という言葉は少し耳慣れないところだと思います。「対流」とは、液体とか気体とかの流体が温度差により流れを生じることですが、これを地域に落とし、地域の個性が様々な有るということをもって、地域間のヒト、モノ、カネ、情報が双方向に動いていくことを目指していくべきではないかということです。この対流自体が地域に活力をもたらすということに加えて、その対流によって新たな価値創造、イノベーションといったものがもたらされるのではないかということです。

イノベーションと言っても難しいことを念頭に置いているわけではありません。たとえば農林水産業とICT技術といったものが融合し、高付加価値の農産物を生み出すとか、あるいは新たな販売ルートを開発等を含めて、私共はイノベーションの創出を期待しており、それを念頭において対流促進型国土の形成というものを基本構想にしたらどうか、ということです。

第2節のところは、国土構造といたしまして、どういう構造にしていくかということです。そこで「重層的かつ強靱な『コンパクト+ネットワーク』」としていますが、対流をもたらすためには「コンパクト+ネットワーク」が必要であろうということに加えて、これからの人口減少社会の対応策といたしましても様々な機能を集約化し、それをネットワークでつなげる、こういったことが必要かと思えます。ただし、ここでは、集落地域の居住地を集約するというところまでは念頭に置いておりません。居住地については、あくまで都市部の居住地のコンパクト化を考えています。

第3節「東京一極集中の是正と東京圏等の位置づけ」ということで、東京一極集中ではやはり地方の活力を喪失する可能性があること、首都直下地震等の災害リスクがあることから、東京一極集中の是正が必要である。一方、東京は国際競争力をつけていく必要もあるだろうとしています。

第4節は地域別整備の方向について整理しています。

これらを踏まえまして、第3章が「国土の基本構想実現のための具体的方向性」ということですが、中間整理はまだ論点整理の段階ですので、箇条書きで整理したところです。今後、各方面からのご意見を踏まえまして、肉付けしていきたいと考えています。

簡単に紹介しますと、第1節で「ローカルに輝き、グローバルに羽ばたく国土」ということで「(1)個性ある地方の創生」、まち・ひと・しごと総合戦略を踏まえて記載するというようにしております。「(2)活力ある大都市圏の整備」では時代に応じた大都市のリノベーションが必要であ

ろうということを整理しています。「(3) グローバルな活躍の拡大」では国内にこもっているだけでは成長は見込めないということで、世界に活躍の場を広げていくことを記載しております。対流の高度化や、リニア中央新幹線を要するスーパー・メガリージョン、又は観光立国、こういったものを記載しています。

第2節は「安定した社会を支える安全・安心な国土」ということで、「(1) 安全・安心で持続可能な国土の形成」は、災害に対し粘り強くしなやかな国土の構築、いわゆる国土強靱化や、国土の適正な管理・有効利用といったものを人口減少下において推し進めていく必要がある、ということを書いています。「(2) 国土基盤の維持・整備・活用」は、メンテナンス問題に加えまして、安全安心インフラ、生活維持インフラ、成長インフラ、こういったものを選択と集中のもと、整備していく必要があるということを書いております。

第3節が「国土を支える参画と連携」ですが、まず担い手ということで、若者・女性・高齢者、といった方々に活躍いただけるような基盤を創っていく必要があるとしています。また、自助、共助、公助と申しますが、国土づくりに置きましても共助社会というものをベースにしていく必要があるということに記載しています。

最後に横断的な視点ということで、時間軸の設定、ICT等の技術革新の導入、民間活力の活用といったことを記載しています。

資料2-3に、全体構成をまとめさせていただいています。全国計画は3部構成を考えておりまして、ただ今説明いたしました中間整理は1部の計画の基本的な考え方について計画部会でご審議いただいたものを中間整理としてまとめたものです。3章を肉付けしたところで第2部、第3部を起こしていきたいと考えております。

資料2-4につけておりますスケジュールについては、1月19日に中間整理を公表いたしまして、都道府県、政令指定都市に法律に基づく計画提案をお願いしているところでございます。3月上旬に中間とりまとめ、5月下旬に最終とりまとめ、その後、パブリックコメントを行い、夏ごろに全国計画の閣議決定を目指し作業を行っているところです。以上、駆け足で恐縮ですが、説明を終わらせていただきます。

#### (麻生会長)

ありがとうございました。今のご説明に対して何かご意見・ご質問ありますか。無ければまた先に進ませていただきながらまた検討していきたいと思っております。

では続きまして議事の(3)をお願いします。

### (3) 新たな九州圏広域地方計画骨子案の概要について

#### 事務局（小滝推進室長より説明）

九州地方整備局の副局長小滝と申します。広域地方計画推進室長をまかされており、この度新たな九州圏広域地方計画の骨子につきましてご説明させていただきます。

まずお手元の資料3をご覧くださいと思います。これは検討の経緯についてご説明している資料です。1ページ目ですが、現在の九州圏広域地方計画、これは平成21年8月に決定されています。10年計画でしたが、その後九州を取り巻く状況といたしまして経済成長目覚ましいアジ

アとの近さというものも背景にありまして、当時の想定を上回って貿易や観光、その他産業活動等の活性化が九州ではみられます。それから当時の想定より人口減少ペースが緩和をしてくれているといった状況の変化が生じています。また2ページ目をご覧いただきたいと存じますが、全国的な動向といたしましては、只今本省の方からご説明がありましたが、人口急減・超高齢化・巨大災害の切迫・地方創生の重要性の高まりといったような動向が出てきており、新たな全国計画の策定が進められている状況となっているということです。こういった全国及び九州の状況の変化を踏まえ、残り5年くらいはあるのですが、新たな九州圏広域地方計画の策定を進めるということで今回の動きが出てまいりました。

3ページ目ですが、この計画の策定の考え方として大きな枠組みとしては、これまでの計画で高められた議論、これは継承しながら最近の状況の変化を踏まえた整え直し、あるいは新たな取り組みの追加ということを行うという考え方で議論を進めて参りました。計画期間は概ね10年といった事を想定しているということです。またこのページの一番下の方に記載していますように、この計画は国土形成計画法において、一つの都府県の区域を超える広域の見地から行う主要な施策というものを記載する、という風に規定されています。九州全域の視点での施策を取りまとめしていく、ということになるかと思えます。

また法律に基づく政府の正式な計画としては、来春決定するというものですので、やはり計画の正式決定時点で何らかの形で実施をしっかりとしていこうという状況があるものを記載したいということになってこようかと思っています。それからこの計画につきましては4ページに策定スケジュールを掲げさせていただいています。ご覧のようなことで、これまで進めてまいっていますが、この度の骨子につきましては本日の協議会にてご了承いただきました後、本省の方で各省間協議を行いまして、了解を得られ次第正式公表という運びとなっていくということです。

その後は、今年の夏頃に第4回協議会を開催し、計画の中間整理という風になっていますが、内容的には計画の素案を1回組み上げてしまいたいと思っています。その後平成28年1月から3月の間のどこかで第5回協議会を開催し、計画の原案取りまとめを行い、その後大臣決定の手続きを本省の方で進めて3月に決定という、そういった公表に向けた予定を想定しているところです。

続きましてこの度作成をさせて頂きました骨子案のご説明をさせて頂きたいと存じます。

資料4が骨子の本文です。こちらが本体ですが、その内容をビジュアルに解りやすく取りまとめた概要資料5の方でご説明させて頂きたいと存じます。

まず表紙ですが、副題として記載していますように、今回の計画の最大のポイントは、九州圏は日本の成長センター「ゲートウェイ九州」として新しい風を西から起こすということを目指していくと、こういう共通認識を形成して広く共有をしていただきたいと、これが最大の眼目であると考えています。

1ページを開いて頂きたいと思えます。この1ページ目から九州圏の現状と課題を取りまとめています。まずは九州の概要ということですが、九州は地理的にアジアからの玄関口（ゲートウェイ）の位置に存在しています。古来より交流の窓口の役割を担い日本の近代化の原動力としても海外の色々な新しい風を受けて大きな役割を果たしてきた、といった歴史があります。またひとつの島ですので、域内の相互関係が強く比較的自立度が高く、そうした中で近年インフラの整



備、特に道路網、新幹線ですが、こういったものが一定程度進展し、次第に色々なポテンシャルが顕在化してきているということが言えようかと思えます。

また九州は豊かな地域資源に恵まれており、左下の図のように地域の幸福度に関するアンケート調査でも、全国のベスト10の中に九州が5県入っているという研究例も見られるところです。

次に2ページの九州の人口動向です。九州圏の人口は全国の約1割ということです。ちなみにGDPも全国の約1割です。したがって1割経済ともいうのですが、各種の資料についての見方ですが、この後全国の中で九州の占める比率がたびたび出て参りますが、1割より多いか少ないかということを目安に見て頂くと解りやすいということが言えようかと思えます。そこに記載のとおり、人口の減少ペースは近年、かつて予想したより緩和してきている、それから出生率は各県とも全国値より高いということで、実は上位30位の内29市町村を九州と沖縄で占めているといった状況になっています。そして高次都市機能の充実した福岡市が、人口成長率、若者率が全国政令指定都市中で第1位ということで、福岡に人口が集中している、人口成長があるという状況です。この為、福岡市が九州から外に人口流出する現象に対してダム効果を発揮しているという風に見られると考えています。また福岡のみならず、右端の方のグラフに赤字で示した他の県庁所在地、こちらにもダム効果を一定程度発揮していただいております、そうしたものが連携して九州からの人口流出の抑止力になっているという状況になっています。また、一番右下の方に各自治体のUターンの取り組み例というものをあげています。こういった取り組みが効果を上げて人口が増加に転じているといった地域も近年見られるところです。

3ページをお願い致します。九州の成長産業という事をまとめています。九州圏の域内総生産は44兆円で全国の約1割ですが、近年自動車、非鉄金属製造業の伸びが大きく、成長期待産業の集積も、その地図に拠点も出ていますように、様々な業種において進展をしてくれています。特出する現象の一つとして、九州の国際競争力が立地上非常に高いという所から、自動車2グループの国内主力生産拠点が北部九州、具体的に北九州市の隣の苅田・中津といったところに移転してきているといった状況があります。その他にも自動車関係の他のグループも拠点をこちらへ設ける取り入れが幾つか出てきています。それからロボット関連産業、あるいは先端医療産業、環境産業、水素エネルギー関係等成長期待産業の集積も進展をいたしており、再成可能エネルギーの開発ポテンシャルも九州は特に運よく、潜在量が高いということが注目されており、関連施設の立地が進展してきているという状況があります。また左下の表にありますように、通信販売が九州は非常に盛んで、ご覧の様な比較的テレビコマーシャルでよく名前を見かける通販会社が進出しており、通販会社の全国のシェア16%を九州が占めているということです。

それから福岡市は開業率、企業者に占める若者の割合が共に全国大都市中で第1位という状況となっています。

4ページをお願い致します。九州の農林水産業の状況です。九州の農林水産業は全国シェアの約2割を占めています。近年海外展開の推進によりまして、いちご、牛肉、ぶりフィレ(ぶりの切身)、それから木材などの輸出が過去最高記録を更新し続けているといった状況がきています。特に中央あたりにグラフがありますが、木材輸出が近年急激に増加しています。これは中国・韓国の方で建築の内装仕上げ材に使う例が最も多いようですが、九州のシェアは約86%と約9割を占めています。中でも志布志港から宮崎県産の木材が出るのが一番ボリューム的には多いですが、

そうした動きは日田杉その他全九州に広がりを見せつつあるという状況になっています。それから輸出先としまして中国・韓国のみならず、むしろ東南アジアそして更にその向こう側のアラブ圏まで視野に入れた取り組みが進んできており、イスラム圏に向けたハラール認証取得企業も増加しており、全国のハラール認証取得企業の大体 4 割強が九州の企業となっているという状況です。

次に 5 ページの九州の通商・貿易です。九州圏とアジア・あるいは世界との貿易額は増加基調にありまして、近年では中国・韓国のみならず東南アジア等との MOU の締結も進んでいるところです。外貿コンテナの取扱量が 2012 年に 157 万 TEU と過去最大となりました。そして右下にグラフがありますが博多港の荷役量はこの 15 年で 2.4 倍に膨らんでいます。ダブルナンバーシャーンといった新しい形態の国際物流モード、これは主として日韓間ですが、こういったものも進んでいます。このページ左上の逆さ日本地図に世界の中枢港湾を記載していますが、世界全体のコンテナ貨物量が約 6 億 TEU ありますが、世界上位 30 港の総取扱量、これは 3.4 億 TEU というボリュームになります。このうちアジア地域が 19 港を占めており、この 19 港の合計で 2.6 億 TEU ということで 78%を占めています。それがこの地図にありますように、東シナ海、南シナ海に集中して位置しており、九州はまさにこれのゲートウェイに位置しているということでもあります。こういったアジアの成長力を引き入れる絶好の地理的条件を持っているということです。

次に 6 ページをお願い致します。6 ページから観光・交流の動向を示しています。まず 6 ページは国内観光です。九州新幹線が先般鹿児島まで開通いたしまして、博多から熊本が約 30 分、鹿児島までが 1 時間 17 分という利便性が確保されました。これによる開業効果は大変大きく、熊本県の観光入込客数が開業後 3 割増加いたしました。域内の宿泊者数も九州全域で順調に増加しており、レンタカーによる周遊観光も近年増加が目立っているところです。九州では一丸となって九州ブランドの観光支援を、ということを目的としたしまして、九州アジア観光アイランド総合特区あるいは知事によるトップセールスによるなどの取り組みが行われています。また JR グループでは、“ななつ星 in 九州”をはじめとする観光企画列車も続々と運行されており、好評を博しているというところです。

7 ページをお願いいたします。本頁は国際観光交流の状況です。外国人の来訪、クルーズ船の来訪あるいは国際会議の開催が非常に伸び続けているということです。外国人の入国者数は 125 万人と過去最高を記録しており、また国際会議の開催件数ですが、福岡市が 2009 年以降 5 年連続で全国 2 位という状況になっています。会場が足りなくて断る例もありまして、新しい会場の建設も進められています。ちなみに第 1 位は東京 23 区です。それから外国のクルーズ船の寄港回数が 2008 年から 2014 年の間に 2.3 倍に膨らんでいます。全国の約 4 割近くを九州が占めています。寄港されると電化製品などの買い物を、かなり大きな額での購買行動が見られるということで、地域活性化には非常に具体的な貢献をいただいているという状況があります。それから新規就航が相次ぐ福岡空港は、LCC の関係もありまして非常に便数が増加しています。福岡空港は現在、羽田・成田に次ぐ全国第 3 位の旅客発着回数となっています。ただ一方では過密化も顕著ということで、平行誘導路の整備を今進めているところとなっています。

8 ページです。九州の災害と自然環境を掲げています。九州は風水害、土砂災害、火山活動等の災害リスクが多いということと、それから南海トラフ大地震が起きた場合には東海岸に津波が

やってくるということが想定されています。近年では2012年の九州北部豪雨の豪雨災害、それから桜島新燃岳の火山活動などが見られる所です。他方において九州は豊かで美しい風景や貴重な生態系、あるいはその自然環境、そして全国の4割弱の泉源数を占めていますが、その温泉の恵みといったものを九州にもたらしています。

次に9ページからは以上の様な現状を踏まえ、九州圏の将来像を記載しています。3つの柱でまとめさせていただいています。

第1の柱は、日本の成長センター「ゲートウェイ九州」ということです。その地図にありますように、今世界の経済成長の中心域はアジアでありまして、このアジアの成長力をいかに日本経済に引き込めるかということが、日本の成長戦略の最大の焦点ではないかと思っています。その成長力を引き込む日本の成長センターとして、ゲートウェイ九州という特性を最大限に生かして日本の成長センターとなって、日本の経済成長への貢献を目指していきたい、ということです。具体的には、右下にイメージ図を掲げていますが、ハード・ソフトの国際物流や人流機能などのゲートウェイ機能の確立、そして同時に域内の交通基盤の充実を図りまして、そうした各種の拠点都市機能や諸機能の役割分担と相互連携を推進していく、という考え方です。

九州全体はそういった各種のゲートウェイゾーンとしての特性をもっており、決して福岡や北九州のみならず全体でそうした特性があると思っています。その上で、九州圏と国内の各圏域との交流・連携を強化していく、それを通じて新しい成長の波を西から起こす、ということで、具体的にはゲートウェイ効果を国内に波及させる為に西瀬戸内海地方、あるいは豊後水道や関門海峡を介した中国圏・四国圏との連携強化、こういったことが重要であると思っています。最後には、その向こう側に近畿圏等の各圏域との交流・連携の強化といった所が重要なのではないかと考えています。こういう形で一種の九州流の対流促進の形成といったことにも寄与できるのではないかと考えているところです。

次に10ページですが、九州の将来像の第2の柱です、三層の重層的な圏域構造からなる「元気な九州圏」を掲げています。圏域の構造としては三層の構造があると考えています。これは九州基幹都市連携圏というのが一層目ですが、右側の凡例にあるような基幹都市の都市機能の連携、ネットワークです。これは九州の中核都市である福岡市をはじめ、各都市がしっかりと手を結び合う、ということで九州の成長基盤の骨格を力強く形成していく、というのが一層目です。第二層目は都市自然交流圏と申していますが、都市と農山漁村等を含む一つの一体的な圏域、これが九州各地に有ると思っています。その都市と自然地域の交流と相互貢献によって一つのまとまりのある共生関係のある造形性をしっかりと作り確かなものとして、具体的な基幹都市、あるいはそれに次ぐ拠点性を有する拠点都市といった性質の都市圏がその中間機能を担うことになるという風に考えています。これはコンパクト+ネットワークといったものと軌を一にする考え方です。それからその更に下の身近なレベルで集落地域等がネットワークで構成される基礎的な生活圏域があると思っています。この中では暮らしやすい生活環境の保全や生活機能を維持していく、その基礎生活圏における中核機能を担うゾーンが拠点都市よりさらに身近なレベルでの生活中心都市、更にはそれに関する合併前の旧役場庁舎でありますとか、道の駅などから構成される小さな拠点といった性質のものが各地にあると思いますがそうしたものが想定されるということです。

こうした三層の重層的な圏域構造を形成して圏域内の連携の強化を図る事によって総合力を高

め合う、元気な九州圏を確立するというものです。

なお、昨年12月に閣議決定された連携中枢都市圏構想推進要綱において連携中枢都市圏という考え方が打ち出されており、これは国土形成計画に反映するという風に閣議決定されています。全国計画の中間整理ではまだこのことは具体的に記述がされておりませんが、今後次第に全国計画の議論の中で明らかになって行くと思いますので、それを踏まえてこういった圏域構造論の最終的な整理を密接に進めてまいりたいと思います。

11 ページをお願い致します。将来像の3本目です。巨大災害対策や環境調和を発展の原動力とする「美しく強い九州」というものを考えています。巨大災害への対応力をハード・ソフト対策の組み合わせによりまず確立する、これは必須不可欠な重要な課題であると思っています。その際にそれを単なる一環としてやるのではなく、国連世界防災会議で提唱されているような「防災の主流化」という考え方がありますが、防災を戦略的に捉えて様々な取り組みにおける内部目的化を図る、そしてその内容をむしろ発展や成長の原動力とする、新技術開発でありますとか産業活動等に一つの新しい活力を引き込む契機として捉えていきたい。そこには一連として雲仙での無人化施工の技術開発の例を挙げていますが、こうした技術が一つの産業の核になっていくといったような動きを考えていきたい、そういう思いです。そしてまた社会資本の老朽化対策、非常に重要と考えており、社会基盤の持続化の可能性の確保が不可欠であると考えています。それから自然環境の保全と適切な活用、環境負荷低減等の取り組みを進めつつ、その事をまた通じて環境・リサイクル産業の活性化に結び付けていく、こういった考え方を打ち出していくことです。

12 ページ以降はこれら3つの将来像の実現に向けた5つの戦略というものを記載しています。

下の方に色々なプロジェクト例を示していますが、これは現時点で関係機関の施策としてビルトインされているものを掲げているものです。新しい施策を今後の策定過程を通じて関係機関等のご協議の中でより肉付けをしっかりと図っていきたくと思っています。12 ページは戦略の5本の柱の内の1本目である「アジアゲートウェイ機能の強化」を記載しています。ゲートウェイ機能を強化するということ、それから空港・港湾・交流拠点施設等の機能強化、陸・海・空の域内交通基盤・交通結節機能の強化を図りまして、物流や人流をしっかりと活性化していくということです。入国管理サービス機能でありますとか、国際ビジネスゾーンの形成、グローバル人材の育成、また国内の各圏域との連携強化なども重要と思っています。ゲートウェイ効果を国内に波及する西瀬戸内海、中国圏等との交流・連携の強化といったことも入ってくるかと思っています。

次に13 ページですが、第2の戦略の柱としていわゆる産業振興であります「九州圏の基幹産業や地域産業の活性化」というものを掲げています。東九州メディカルバレー構想特区による医療機器産業の振興・取り組みに明示されますような、九州を支える新産業活力の発展・活性化を目指していく、それから農林水産業や地域産業の新たな展開、農業の成長産業化にむけた協力・連携でありますとか、九州ブランドの育成と販路拡大といった事が重要であると思っています。

14 ページですが、第3の戦略「九州圏の圏域の向上と連携の強化」というものを掲げています。三層の重層的な圏域構造をしっかりとしたものにしていく為、各圏域の地域づくりを進めていくというものです。そこに掲げているようなコンパクトなまちづくり、あるいは長崎駅前等々で今実施されています駅前再開発や土地区画整理事業を引き続きしっかりと進める。また福岡市のグローバル商業雇用創出特区といった、そういった主に基幹都市機能をしっかりとしたものにし

つつ、ここに記載の様な地域づくりを進めていくことが重要であると思っています。

また 15 ページですが、「安全安心の確保と自然環境・国土の安全」ということで、TEC-FROCE を含めたハード・ソフト対策、あるいは砂防、治山、治水等の取り組み、インフラ長寿命化対策、環境負荷の軽減等の取り組みを進めながら、それを産業の活性化に結び付けていくということです。ここに示していますのは、一つは左下の曾木の滝分水路、これは災害復旧事業で整備してありますが、景観に配慮し、グッドデザイン賞をいただいております、一つの観光活力の源になりつつあるという状況があります。それから湯けむり発電やバイオマス、その他水素エネルギーなどの取り組みが見られるところです。

そして 16 ページの最後の 5 本目の戦略ですが、交流連携の促進、ということで交流ネットワーク基盤を整備していく、高規格幹線道路や九州新幹線長崎ルートの整備促進などが進められています。それから、関門地方の方で近畿圏や四国圏へのカーフェリーの新造船の就航といったことが東九州道の開通などが背景に見られるところです。こういった輸送力の強化等の支援そして観光促進や観光収入の向上といったものを目指した取り組みが挙げられると思っています。以上が骨子の概要です。

また少し補足させていただきますと、各機関から色々なプロジェクト提案を既に多数頂いているところではありますが、この度はこの 3 つの将来像と 5 つの戦略といった枠組みを、共通認識としてお認め頂けるかということ、特にお諮りさせて頂きたいという考えです。それから今後につきましては国土審議会の全国計画策定に向けて、現在国土政策局より都道府県や政令市に計画提案の照会がなされています。九州地方整備局の事務局の方との連絡・調整を図りつつ、様々な計画提案について情報共有をしていきまして、今後全国的な議論動向をしっかりと受けとめながら今後の広域地方計画の策定を進めて参りたいと考えていますので、よろしくお願ひしたいと存じます。以上、ご説明させていただきました。

#### (麻生会長)

ありがとうございました。

我々地元でもあまり気付きませんでした、九州の色々な強さがみてとれ、タイトルも「新しい成長の風を西から起こす」というということで、我々地元が見たら震えあがるような嬉しい話を、様々な数字から、説明していただきました。

それでは各構成員の方よりご意見をいただければと思います。  
まずは、佐賀県からお願い致します。

#### (佐賀県)

私共、佐賀県は知事も変わりました、新しい 4 年間の施策の実現に向けて新たな総合計画の策定に取り組んでいる所です。本日ご説明いただきました戦略と、それから将来像、こういったものを十分意識をさせていただきながら、佐賀県としてやらなければならない事、施策の策定を進めたいと思っています。その中では、佐賀県あるいは県内の市・町が主体的に取り組むべきものがあり、また先ほどからひとつのキーワードとして「交流」が出ていますが、近隣の県また九州圏一体となって取り組みをお願いしたいものも事業を整理する上で当然、出てこようかと思って

おります。そういったものにつきましては今後また計画提案とそういったプロセスを経てお伺いをさせて頂きたいと思っておりますので、御支援・ご配慮等お願いできればと思っております。以上です。

#### （長崎県）

長崎県といたしましてもこの5つの戦略につきましては非常に、先程会長の方からもお話がありましたように、非常に目新しいものがあるという風に思っています。まずアジアのゲートウェイ機能の強化という中で、長崎県としましても、最も国境に近いというところもあり、特に長崎空港の24時間化ということも非常に考えていますので、そのあたりを是非また議論させていただければと思っています。最後に九州圏の活力を創出する交流・連携の促進という中で、かねてから懸案事項である長崎・鹿児島・熊本の3県を結びます三県架橋というものにつきましても力を入れていますので、是非これも宜しくまたご協議頂けたらと思えますし、今九州で唯一、統合型リゾートにつきましても取り上げていますので、是非九州圏に活力をもたらす交流・連携の促進という中でIRというものも、是非位置づけていきたいと思っておりますので、今後これら施策を入れる為にご相談をさせて頂こうと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。以上です。

#### （熊本県）

熊本県は九州の中心に位置する関係で、大規模災害の復旧復興、あるいは支援とかそういったことを含めて幹線道路のネットワークの整備の促進に努めています。今後の計画の具体的な取り組みの中で反映させて頂ければと思えます。

それと外国船のクルーズ船の寄港要請が相次いでおり、物流拠点の八代港を持っているのですが、いかんせん施設整備の観光客対応が遅れているということがあり、その辺の整備の必要性を感じています。

それとインバウンド対策としまして、地域の活性化に繋がるとは思うのですが、いかんせん外国人を含めた観光客対策のノウハウとかそういうものが非常に不足しているというところがありますので、そのあたりの蓄積にも務めていく必要があるという風に考えています。以上です。

#### （鹿児島県）

冒頭話がありましたように、九州は日本の成長センターと今後成長するように期待されているということですが、本県が、事務局を預らせて頂いている「明治日本の産業革命遺産」が、今年の6月に世界遺産登録の運びとなっております。それに続きまして来年は長崎県さんと熊本県さんの教会群が新たに申請されますし、それからそれを今年奄美・琉球、これが世界自然遺産登録これを再来年の目標にして今頑張っています。

九州でいくと、世界から人を呼び込めるような、そういうプロジェクトといったものが、それからずっと引き続き出てくるということで、九州全体で取り組んでいければ非常に大きな力になるのではとないかと思っております。

その中で、最後に申し上げました奄美の関係ですが、実は7ページの資料には入っていないの

ですが、昨年7月から奄美群島振興交付金を使いましてバニラエアというLCCが成田-奄美間を1日1便飛ばすようになりました。これは大変な賑わいを地域にもたらしています。今後やはり世界遺産登録というのを考えますと、特に奄美と琉球の連携というのが出てまいりますし、世界から人がやってくる、そういうアクセスにもなるかと思っています。今後、この計画を肉付けして頂く段階で、そういった世界遺産への取り組みを取り入れ、それから奄美、離島についてもその辺の記載をきちんと肉付けしていただけたらと思います。以上です。

### (福岡県)

冒頭麻生会長からお話がありました通り、九州から日本を動かす、こういう気概を持って私共も取り組んでまいりたいと考えています。佐々木国土交通審議官のお話にありましたように、今後アジアは世界の成長センターになると思われており、今回とりまとめて頂きました、広域地方計画の骨子案におきまして、九州圏をアジアの成長力を引き込む日本の成長センターと位置付けておられることはまさに光栄かと考えています。また骨子に組み込まれた内容につきましても農林水産業、観光産業、あるいはセンター成長産業の育成、強化、また地域のエネルギー政策、更には70歳現役社会づくりなど、本県が進めています政策と考え方、方向を密にしたものであると考えています。その中で特に2点についてだけ申し上げたいと思います。

1点目は空港についてです。先月決定されました平成27年度政府予算案におきましては福岡空港の平行誘導路二重化の実施に加えまして、第2滑走路の新設に向けての予算が計上されたところです。長年の課題である混雑解消に向けまして極めて大きな一歩を踏み出したと、大変嬉しく思っている次第です。また本日の計画骨子案にも具体的に平行誘導路二重化および滑走路増設の推進を記載して頂きまして大変心強く思っています。ありがとうございます。福岡空港はアジアとのゲートウェイの機能強化においても、又、我が国にとっても戦略的に極めて重要な空港であると、私共は考えています。両事業の早期着工、そして完成につきまして引き続き宜しく願いを申し上げます。そして本県にはもう一つ空港がありまして、24時間運用可能な海上空港である北九州空港です。この北九州空港と福岡空港との役割分担、そして相互補完、これを進めるという考え方を我々は明確にいたしており、これが本県ひいては九州全体の発展に寄与すると考えています。このためまずは、我々も暫定予算の中で発表いたしました、北九州空港と福岡都市圏を結ぶ高速リムジンバスを導入する、という方針を掲げております。こういったことで、北九州空港への新規路線の誘致の方を進めて参りたいと思います。福岡市さん、北九州市さんと連携してしっかりと取り組んでまいりますのでよろしく願いいたします。

もう一点は、農林水産物等の海外輸出でありまして、本県ではかねてから県下のJAが6割近くを出資しておられますが、福岡農産物通商という会社を立ち上げています。これを通じての輸出、販路の拡大に取り組んでいますが、なかなか県単独の取り組みでは海外の消費者ニーズに対応できるだけの品揃え、あるいは量の確保というものが難しいということで、各県の農産物のブランドは大切にしながら、相互に補完し合って輸出を一緒に取り組んでいくことが必要であると感じています。九州経済連合会におかれましては九州全県のJAと連携して、九州産直市場の設立に向けた取り組みを進めておられまして、私共といたしましては今後九州一体となった農産物の輸出強化の取り組みについて、各県さんを通じて経済界、農業団体の皆様と御相談を進めて参りたい

という風に考えていますので、よろしくお願ひ申し上げます。今後ともこの骨子案には、先ほど申しましたような我々の考え方が盛り込まれているということですので、国の関係機関の皆様、各県経済界の皆様と連携してしっかりと進めてまいりたいと思います。ありがとうございました。

#### (大分県)

麻生会長さんには今回の計画の骨子案を作成することについてご尽力いただいていますことに感謝致したいと思います。また、大分県の意見を色々盛り込んでいただきまして感謝致しています。今日は2点ほどお願ひをしたいと思います。

1点目は、九州圏の交流を促進するネットワーク基盤の整備についてです。これは第3章5節(1)のところです。九州圏を構成するネットワークについては、皆様ご案内の通り、西側は高速道路の整備はもちろん、九州新幹線の鹿児島ルートは開業しましたし、更に34年までに長崎ルートが完成するというところで、東側がどうしても遅れています。ようやく48年間掛って東九州自動車道がこの年度末にほぼ全線開通いたします。今回の提案は、これから新幹線を是非東側でやっていただきたいということです。九州地方知事会も東九州新幹線の基本計画路線から整備計画路線への格上げについて決議、提案をしていますし、それから特に地方創生が今掲げられており、循環型の九州圏域を作る意味からも経済交流等、色々な面で新幹線整備が非常に大事ですので、是非宜しくお願ひをしたいと思います。

もう1点は、同じ箇所に記載している、四国とのネットワークについてです。四国は本四架橋が3つ整っています。神戸-鳴門ルート、瀬戸大橋、尾道-今治ルートですが、九州と四国の連携は、フェリーではつながっていますけども、そういったトンネルあるいは橋で繋がっていません。新たな国土計画の全国計画の中間の整理では、広域ブロック相互間の連携のため、太平洋新国土軸構想等4つの国土軸の構造とも重ねていくと記載されていますので、これとの整合性を取る意味から是非この主旨を新たな九州圏の計画に盛り込んでいただきたいと思います。特に重層的な国土軸を作っていくということは非常に大事であり、色々震災の時も言われましたので、是非記載をお願ひしたいと思います。以上です。

#### (宮崎県)

九州圏の活力、九州全体としての活力を創出するというところで、この計画の骨子案を認めて頂きましてお礼を申し上げたいと思います。大分の副知事と発言内容が重なりますが、ネットワーク基盤の整備、東九州の問題は大分の副知事からも出ましたが、是非これはお願ひしたいと思っています。鹿児島から、宮崎・大分・福岡が一本でつながり、かつ九州全体が全部繋がって行くということが非常に重要であるという風に思っています。それと宮崎からということで行きますと、中央道の横軸を、ひとつはやはり熊本へ行く横軸、これは今後物流の面を考えた時には非常に重要になってくるであろうと考えているところです。それから東九州新幹線の問題、これは最初に10年間で実現可能なものというお話でしたが、10年間で整備が出来るとは我々も思っているわけではありませんが、取り組みは開始できるはずだと理解をしています。つい一昨日も福岡、大分、宮崎、鹿児島、今度は行政だけではなく民間の方も集まって頂いて東九州新幹線整備シンポジウムをさせていただきました。先程大分県の副知事からもありましたように九州知事会、



そして九州各県の県議会においても特別決議ということでやっていますのでこの東九州新幹線の問題についてもその計画の中での位置付けということについても配慮願いたいと思います。以上です。

#### (福岡市)

福岡市は、アベノミクス第3の矢の要となる国家戦略特区に御指定いただきました。そしてこの度計画にも随所に盛り込んでいただきまして誠にありがとうございます。皆様のご協力のもと、様々な取り組みをこれからも進めて参りたいと考えていますので引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

また、先ほど北九州市様からもありましたが、福岡県様、北九州市様とも共に進めていますグリーンアジア総合特区のような九州との自治体との連携の取り組みにつきましても、引き続き力を入れてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

#### (北九州市)

北九州市では3年ほど前から福岡県さん、福岡市さんと一緒にグリーンアジア国際戦略総合特区ということで、アジアに向けた環境産業の拠点を作って行こうという取り組みを進めており、昨年の秋には、県内投資額や、雇用で全国の7つの中でもトップクラスの実績を上げている取り組みを進めています。その中で当然公衆を呼び込むというところもありますが、我々北九州市としては色々これから発展するアジアに生活インフラ、環境インフラの都市基盤を、日本の優れた色々な技術を含めて出していこうと言うことで、ベトナム、インドネシア、タイ、カンボジア等々で上下水道の設備であるとか、あるいは色々な廃物処理施設であるとかいったような色々輸出するといったところに取り組んでいます。まさにその所がアジアのゲートウェイというところのある部分とも関連してくるのではないかと考えており、更にこれから、そのところを発展させて出していただくだけではなく、現地で使いこなせていける人材をこちらに呼び込んでこちらで人材育成をしていく、というような取り組みもやろうと考えており、まさにアジアのそういった環境関連の人材育成拠点というのをこれから築いていきたいと思っています。そのあたりを一つの取り込みの柱にしていきたいという風に思っていますので、是非この計画の中でそういった所を記載していきたいと思っています。以上です。

#### (熊本市)

先程色々九州圏の将来像等をお話いただきまして九州の強みというものが改めて解りました、私共も力を入れて、という感じです。

熊本市も政令指定都市になり3年ほど経ちました。やはり人口減少等が主要な対策で大きく取り組んでいる所です。定住促進、交流人口を増加する、少子化対策、この3本の柱を今やっていますが、やはり全国を見ますと、全国で東京が独り勝ちをしている、九州ではやはり福岡の力がある、また熊本県では熊本市がある、ということ。また熊本市内でもやはり人口増減があるということで、同じような現象が、それぞれに次元が違っていても同じようにある事だと思っています。そういう意味で私共が今からやっに行かなければならない事は、特にそれぞれの連携、ネッ

トワークの連携、これをやはり重要視していかなければならないと思っています。そういう意味で今回お渡しいただいた中でも連携というものが書いてありましたが、各県での強みというものをそれから各市の強み、これをどうやって生かしていくのか、そしてお互いに連携をしていくのかということ、こういうものを特に今回の地方計画の中に十分反映いただければ我々も一つの示唆を頂けるものだと思います。以上です。

#### **(九州地区町村会長会)**

町村会といたしまして、個々の町村の力は非常に小さいのですが、先ほどの説明の中にもありました、拠点都市を中心とするそういうネットワークの中で、いかに私共がその中にうまく乗り、それぞれの町村を発展させていくか、そういった事を今後考えさせていただきたいと思えます。是非ご協力の方をよろしくお願い致します。

#### **(九州管区警察局)**

九州管区警察局におきましても、色々な作業がありますが、それにつきまして県、市町村、消防関連機関と連携してやっていきたいと思えます。以上です。

#### **(九州総合通信局)**

総務省は ICT の関係でこの計画の中に盛り込んでいただいています。全国計画の中でも ICT の劇的な進歩ということで挙げられていますように、インフラとして非常に重要です。光ファイバー、携帯電話、Wi-Fi も非常に重要になっています。そういった情報通信の面で私共も出来るだけのことをやらせて頂きたいと思えますので、どうぞよろしくお願い致します。

#### **(九州財務局)**

財務局は財務省の出先機関であります。予算の編成については、財務本省の仕事であり、私達の担当ではありません。私達のところでは、例えば、国有財産に関する仕事をしております。その活用を通じてお役に立てることがあるのではないかと考えています。また、金融機関の監督等、金融に関する仕事をしております。それぞれの産業への資金供給について、地域の計画を踏まえて私達ができることを側面からサポートしていけたらと思っております。よろしくお願い致します。

#### **(九州厚生局)**

只今ご案内いただきましたこれらの計画の遂行に当たりまして、やはり医療、福祉といった生活機関の整備というものが重要だと思えます。先の皆様方のご議論を頂きまして東京の方に意見を伝えたいと考えていますので、どうぞよろしくお願い致します。

#### **(九州農政局)**

九州は農業が盛んな地域です。農産物の生産、そしてそれを使った加工等の6次産業化、又輸

出の促進、それから観光と連携した農業というのを積極的に展開して参りたいと思っています。よろしくお願ひ申し上げます。

#### **(九州森林管理局)**

九州の森林面積は、全国の1割を占めていますが、素材生産量では全国の2割、更に杉は、全国の3割から4割を占めているということで、成長しつつある重要な資源を有効に活用していく必要性を感じています。九州からの木材輸出も大きく伸びています。林業の成長産業化を促すことが大きな政策課題です。九経連麻生会長に来ていただいていますけれども、九経連では一昨年「森林・林業・木材産業アクションプラン」を作成して頂いており、九州の経済界から森林・林業・木材産業に力を入れて行こう、との意見を頂きました。これは非常に画期的なことでありまして、今後、経済界と行政とが九州一丸となって、林業を発展させていきたいと思ひますので、よろしくお願ひ致します。

#### **(九州経済産業局)**

九州・沖縄地方成長産業戦略の関連でお話したいと思ひます。戦略は昨年3月に九州地方知事会が中心となって策定したものです。成長産業4分野に22のプロジェクトがあり、観光ははっきりした数値目標がありますが、定性的な目標が多いものですから、プロジェクト毎に、幹事を務める県あるいは機関に数値目標の設定をお願いしているところです。その数値目標に応じて、九州圏広域地方計画に盛り込むべき、経済の活性化の見通しとか、必要なインフラ整備についても、だんだん見えてくると思ひますので、そうした地方の成長産業戦略の盛り込みについてもお願ひしたいと思ひます。

#### **(大阪航空局)**

本日の計画内容で言えば、アジアゲートウェイ機能の強化、あるいは交流連携の促進、こういった点では非常に航空分野が重要と認識しています。特に福岡県さんから直接具体的に福岡空港整備について、ご期待という話もありましたし、観光2000万人という目標もありますので、空港がボトルネックにならないように、しっかりと対応していきたいということを、改めて今日のご議論を聞かせていただいて思った次第です。以上です。

#### **(第七管区海上保安本部)**

第七管区海上保安本部それから第十管区海上保安本部を代表しまして申し上げます。海保と致しましては、海の安全・安心という観点から、本会に参画させて頂いています。一例をあげれば、南海トラフの地震、津波、これの発生が懸念されているところですが、いずれにせよ、安全・安心という観点に立ち、この地域の発展に引き続き貢献をしていきたいと考えています。

今後どうぞよろしくお願ひ致します。以上です。

#### **(九州地方環境事務所)**

自然環境保全とリサイクル等を含めて、事務所で情報共有しまして、国土保全を含め、取り組

みを推進させていただきますので、よろしくお願い致します。ありがとうございました。

#### (九州運輸局)

今日は委員の皆様方から取り組みに対する意思表示でありますとか、要望を色々聞かせて頂きまして、ありがとうございました。私共九州運輸局、先程来話しが出ています交通モードを抱えていますけれど、今非常に力を入れていますのは観光です。昨年の4月から私共九州運輸局は、「運輸と観光で九州の元気を作ります」というキャッチフレーズでがんばっていますので、今日は非常に心強いお話しを聞かせていただきました。この計画自体をどう変えていくかということ、今後色々とお相談させて頂くことになると思いますけれども、取り敢えず、抱えておられるプロジェクトを進める上で、ご相談事がありましたら、それに先んじて相談して頂きたいと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

#### (九州地方整備局)

九州地方整備局は、九州運輸局と共に九州圏広域地方計画推進室の事務局をやっております、今回の計画立案に対し、大変ご協力頂きましてお礼を申し上げたいと思います。今回ご提案をさせて頂きました一番の意味ですけれども、日本の成長センター「ゲートウェイ九州～新しい風を西から～」という考え方につきまして、概ね皆様方のご賛同をいただけたのではないというふうに意を強くしたところです。今後この考え方の実現におきまして、引き続き皆様方のご協力をよろしくお願い致します、私からの発言にさせていただきます。

#### (麻生会長)

ありがとうございました。多くの皆様から意見を頂きましたけれど、只今の皆様のお話しに対して、意見やご質問がありましたらお願い致します。先程のWi-Fiは非常に観光での大きなテーマになりますけれど、この辺どんなこれからの流れになるのでしょうか。やはり外国人が来て、日本でWi-Fi増えたというのを盛んに指摘するのですが、先行きはどのような感じでしょうか。

#### (九州総合通信局)

質問をして頂き、ありがとうございます。Wi-Fiの関係は色々民間の業者さんも取り組みをされていまして、よくありますのは、コンビニや、観光名所での整備がみられますが、主にふたつの事業者、携帯電話会社系列のところ整備をされていますけれど、実際整備されているところには他社等が相乗りをされ、二重とかあまり無駄の無い形で民間が進められているという状態があります。国としては、やはり民間に任せておいてはなかなか整備が進まないような防災拠点や、あるいは観光の、例えば国立公園などで整備を頂くという所について、平成26年度補正予算と平成27年度の当初予算で、今ご審議頂いているところですが、確保したいと思っており、活用頂きたいと思います。それから今年度の予算でも、ここにも熊本市さんとかおられますけれども、防災拠点での整備ということで予算が確保されています。それを踏まえて、これからは観光と防災ということで用途を広げて、今後も拡充していくということでさせて頂いています。

**(麻生会長)**

ありがとうございます。九州経済連合会の会長という立場では、予算確保の為に、「これは九州では珍しいことやっているな」と、「少しモデルを九州に作らせようか」と霞ヶ関がそういう風に思っていたかのような特徴的なプロジェクトを地元から出そうと、九経連が考える3つの中の1つに、Wi-Fiがある。「九州は便利だ」と言ってもらえるように、7県が一体となって、「九州にそれだけWi-Fiを張ってみるか」と、「それだけ違うのか」という1つの事例をつくり、観光面にとって、「やはり九州アイランドは便利だ」というようなイメージをプロジェクトとして出そうというのがありますので、又、局長に色々ご相談に行くと思えますけど、よろしく願い致します。

九州森林管理局のご意見ですが、杉について、我々ジェトロと組んで、九州で杉を輸出したら、今まで百万円単位の売上があって、今度は億単位九州でまとまったという話がありました。九州は、森林も、私は農業と水産は聞いていたのですが、本当にそんなに動いたのですか。

**(九州森林管理局)**

本日の資料の中で木材の輸出が増えているとのデータがありました。その大半が九州からのスギ・ヒノキの輸出です。また輸出が増えているのは原木です。それを更に地域経済に貢献させるためには、製品輸出を広げていく必要があります。昨年の秋にジェトロと九経連が連携して、中国と韓国の製品関係のバイヤーを集めて、宮崎、大分、熊本でそれぞれ商談会を開きました。私共国有林も木材の生産者の立場として、木材の輸出、特に製品の輸出について、九州各県の取組推進に非常に期待しているところです。

**(麻生会長)**

ありがとうございます。また我々は観光に、その330万人とか400万人とか、そのストレッチゴールをかけています。これは九州観光推進機構という全国でも珍しく、7県がまとまって、九州への観光誘致の取組みがみられ、あるいは沖縄に来た人の九州への呼び込みや、外国人のインバウンドを増やす取組みを検討している。その中のひとつのテーマが、400万人とかいう数字、国も1300万人、2000万人を示しているが、やはり宿泊数を延べ宿泊数で示す必要がある。1泊で帰られるパターンが非常に多く、せっかく熊本に来たのだから、阿蘇まで伸ばすとか、温泉まで行ってみるなど、長期宿泊を促して消費を喚起する等の取組みも進める必要があるのではないかと思います。100万人、その今の九州140万人が240万人に、100万人増えると、20万円ずつ落としていくと2000億円です。ネットで2000億円の産業を一気に増やすというのは、なかなか難しいですが、100万人を今の勢いで25%増して改善して伸びて行くと、一気に1000億単位のお金が落ちる。しかもアジアは中産階級が増えています。日本に来たいという意欲がものすごく高い。来た人はこんなにきれいな所で、美味しくて、円安のお陰で安い等の意識があります。九州は観光に力を入れたいと思っています。その際、クルーズ船等で、上陸や入国するのに長時間待機の解消等、そのようなサービスのレベルの向上でも、人が増える可能性があるので、色々なテーマで検討する必要があると思います。

**(宮崎県)**

観光で、宮崎はこの3月28日に香港の海外便がまずひとつ増えるということで、韓国を始めとして、それから台北、そして香港ですが、CIQの問題が非常に大きな問題でありまして、この分については国に色々と教えていただかないと、なかなか県としては難しいことなので。是非この機会についてお願いしたい。

#### **(麻生会長)**

新たな広域地方骨子につきましては、本日の資料の内容をご了承頂いたものと考えます。特にそのひとつの大きなキャッチフレーズである「ゲートウェイ九州～新しい風を西から～」は、我々地元人としてうれしく、新しい成長の風を西から起こそうと、創って頂きましたが、宜しいでしょうか。本計画のメインテーマである、日本経済成長センター「ゲートウェイ九州～新しい風を西から～」を全国計画への反映をお願いしたいと思います。今後計画素案の検討にあたっては全国的な動向も踏まえながら、進めて頂きたいと思います。

では、本日予定されておりました議事は終了と致します。

#### **(事務局)**

麻生会長、本日の議事の進行、誠にありがとうございました。また皆様方におかれましては、多くの貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。これをもちまして第3回九州圏広域地方計画協議会を閉会したいと思います。誠にありがとうございました。